

平成 31 (2019) 年度 東北大学法科大学院入学試験 (追加募集)  
試験科目: 刑事法 (刑法)

【設問】

以下の【事例】に挙げられた事実が真実であることを前提にして、X及びYの罪責について論じなさい(特別法違反の罪は除く。)

【事例】

1 X(35歳・男性)は、高校時代の同級生であるV(35歳・男性)から100万円を借りたが、失業中のため、期日を過ぎても返済することができず、Vから執拗に返済を迫られていた。2017年3月5日、XはVを殺害して、100万円の返済を免れようと考え、金を返済するという名目でVを自宅に招き、睡眠薬の入ったビールを飲ませて眠らせた上、Xが所有する普通乗用自動車(以下、X車とする。)で「α山」まで運び、同所で殺害する計画を立てた。Xが上記計画を妻であるY(30歳・女性)に伝えたところ、Yは「仕方ないわね。協力するわ。私がVさんにビールを飲むように勧めるわ。Vさんが眠ったら、後のことはあなたがやってね。」と言った。それを聞いたXは「分かった。」と言った。

2 翌6日、XはVに電話をかけ、Vに対して「金を渡すから、今晚、俺の家まで来てくれ。」と言ったため、同日午後11時頃、VはX宅を訪れた。VがX宅の居間でXと話していたところ、Yが上記計画に従い、Vに睡眠薬の入ったビールを出して、飲むように勧めた。VがYに勧められるまま、上記ビールを飲み、睡眠薬の作用で眠ってしまったため、Xは1人でVをX車後部のトランク内に押し込み、トランクカバーを閉めて脱出不能にし、X車を「α山」に向けて発進させた。

3 同日午後11時50分頃、X車を「α山」に向けて走らせていたXは、交差点の信号が赤になったため、X車を停止させた。XがX車を止めた場所は、車道の幅員が約7.5mの片側1車線のほぼ直線の見通しのよい道路上であった。XがX車を停止させた直後、後方からAが運転する普通乗用自動車が走行してきたが、Aは前方不注意のために、停車中のX車に至近距離に至るまで気付かず、同車のほぼ真後ろから時速約60kmでその後部に追突した。その結果、X車後部のトランクは、その中央部がへこみ、トランク内に押し込まれていたVは、第2・第3頸髄挫傷の傷害を負って、間もなく同傷害により死亡した。